

ハッ場ダム周辺地域における地域振興について 「やんばツアーズ」と「チームやんば」

手塚 祐美¹

¹ハッ場ダム工事事務所 地域振興課 (〒377-1395 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋 1 1 番地)

ハッ場ダムは首都圏の洪水被害の軽減や水道用水等の確保などを目的に、平成31年度の完成を目指してダム建設事業を進めている。平成29年3月には定礎式を行い、平成30年5月末時点でダム高116mに対して約7割の進捗となっている。

本稿では、今しか見ることができない大規模なハッ場ダム本体建設工事を観光資源と捉えて昨年4月からスタートしたハッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」について、実施状況を紹介すると共に、事業完了後の地元主体の継続的な地域振興のあり方について課題と今後の方針について報告するものである。

キーワード インフラツーリズム、現場見学会、やんばツアーズ
自由に観るやんば、ふらっとやんば、チームやんば、継続的な地域振興

1. 背景と目的

ハッ場ダムは、群馬県の北西部、群馬県吾妻郡長野原町に建設中の多目的ダムであり、新潟県と群馬県の境にある大水上山を水源とする利根川の支川、吾妻川のほぼ中央部に位置している。(図-1)



図-1 利根川流域図

ハッ場ダムは今から70年前のカスリーン台風の被害を契機に、昭和27年には利根川改修改訂計画の一環として調査に着手した。地元の強い反対運動など紆余曲折があったものの、ダム本体建設工事に平成27年1月に着手。平成28年6月からコンクリート打設を開始した。

生活再建事業も並行して進められている。ハッ場ダムでは現地再建方式(ずり上がり方式)を採用しており、各地区ごとに新しく作られた代替地への移転が進んでいる(図-2)。また国道145号や県道、JR吾妻線は付替が完了している。



図-2 ダムサイトから見た生活再建事業の状況

ハッ場ダム工事事務所では、以下を目的として、ハッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」を実施している。

(1) ダム事業の理解促進(広報)

ハッ場ダム工事事務所では、従前より積極的な広報活動を実施しており、「事業を知ってもらう」、「事業に

興味をもってもらい」、「事業を理解してもらい」といったステップが必要と考えられる。(図-3) 近年こそダム愛好家など、ダムを見学し、ダムに興味をもち、理解してくれる方も増えてきているものの、一般的に見ればダム事業の認知度はまだまだ高くないことから、「事業を知ってもらい」ための情報発信を重点的に実施してきた。ハッ場ダム本体建設工事に着手し、本格化したタイミングに合わせ、新たな広報活動の一環として、実際に現場に来てダム事業を知ってもらい目的でハッ場ダム工事現場見学を開始した。

見学者にハッ場ダムの役割などを正しく理解してもらうことに加え、口コミ、SNSの発信や大勢の方がハッ場ダムを訪れることがニュース性を高め、新聞・テレビで報道されることにより、ハッ場ダムの認知度を上げ、さらに来訪者の増加に繋がると考えられる。

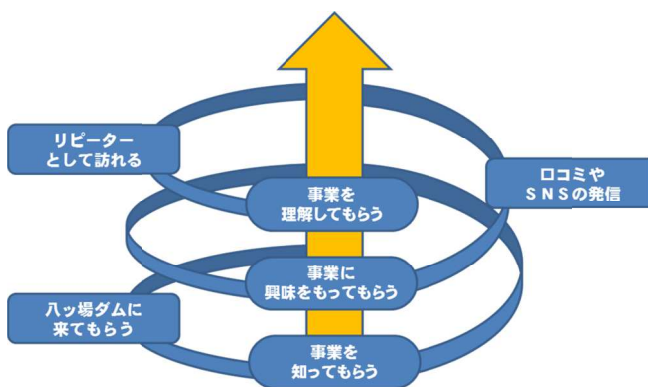


図-3 理解促進概念図

(2)ダム本体工事と着地型観光(地域振興)

ダム完成に向けて、ハッ場地域における地域活性化が必要といえる。関東地方整備局が公表している「宮ヶ瀬ダム定期報告書¹⁾によると、宮ヶ瀬ダムのある清川村総観光客数は本体工事期間中に急増したことが、ダム完成後の観光客数に寄与していると考えられる。

ハッ場ダムでは、1時間圏内に年間300万人が訪れる草津温泉をはじめ、四万温泉、伊香保温泉、軽井沢などの観光地が多数あり、また将来の湖面沿いにある国道145号は1万台/日の交通量がある²⁾。現状では、ハッ場ダム周辺に多くの観光客が来ているものの、ハッ場地域を通過してしまう観光客が大半である。一方で、首都圏ではダム本体建設工事を実施しているのはハッ場ダムだけであり、スケールの大きいダム工事現場は観光資源になりうる。このような状況の中で、ハッ場ダム工事現場見学を着地型観光のプログラムのひとつとして提案し、他の観光地と共に、ダムを含めたハッ場地域に立ち寄ってもらい、これをきっかけに、来訪者がリピーターとなってもらい、持続的な地域振興に繋がると考えられる。

2. 実施内容

ハッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」は、「いまだけ」・「ここだけ」・「あなただけ」をキャッチフレーズに、普段は入ることができないダム工事現場で、地元吾妻郡在住の女性で構成された“やんばコンシェルジュ”が楽しく・わかりやすく案内・説明を行っている⁴⁾。

「やんばツアーズ」は目的別に10本の見学プランがあり、個人旅行を対象とした「個人向け現場見学会」、団体バス旅行を対象とした「団体向け現場見学会」に大別できる。また、誰でも自由に見学できる「車・徒歩でめぐる自由見学場所」、地元住民を主体として行う「チームやんば」主催イベントへの協力の四つをハッ場ダム観光プロジェクトとして位置づけ、旅行者のニーズや旅行スタイルの多様化に応えることができるよう受入体制の確保を行った。

(1) 個人向け現場見学会の概要

個人向け見学会は、通年開催している一般個人向け現場見学会を主に、期間限定の現場見学会及びハッ場ダムファン倶楽部限定の見学会を新たに開設し、より旅行者のニーズに対応できるようにした。

a)ハッ場ダムぷらっと見学会

昨年度までは事前に申込が必要な、見学会を行っていた。(開催日は月曜日～土曜日(木・日曜日・祝日は休み))平日は13:30～、土曜は10:30～と13:30～の二回制でバス(定員25名)移動していたため、案内できる人数に制限が生じてしまった。

それを踏まえ、平成30年4月からは、平成29年度に長期休暇期間限定で実施していた「ハッ場ダムぷらっと見学会」を木曜日以外の毎日実施している(今年度10月以降は未定)。より気軽にダム工事の様子を見学に来てもらうため、この見学会では事前予約不要で、見学会の集合場所で直接参加の受付をし、毎回先着40人程度を案内している。平日は11:00～、13:00～の2回、土日祝日は10:00～、11:00～、13:00～、14:00～、15:00～の5回実施する。所要時間は1回約40分である。

見学場所は工事現場であるため、見学者もヘルメットの着用が義務付けられているが、カラーヘルメットを10色用意し、見学者に好きな色を選んでもらい、工事現場をより身近に感じてもらう工夫を行っている。また、子供用のヘルメットも用意するなど、老若男女様々な人が参加し、好評を得ている。(図-4)



図-4 「八ッ場ダムぷらっと見学会」の様子

また、24時間体制でダムの本体工事を行っているため、夜の工事現場の様子も見てもらおうと、毎月第3土曜日には「八ッ場ダム土曜の夜の現場見学会」を行っている。「ぷらっと見学会」と同じく事前予約が不要であり、時間は19:30～の1回実施している。

他にも期間限定の現場見学会等を実施している。

b) 期間限定の現場見学会

「ホテル観賞と夜間工事見学会」, 「名勝吾妻峡の紅葉とダム見学会」, 及び「やんば冬の新名物樹氷と夜間工事見学会」を八ッ場地域ならではの魅力とダム見学をセットで期間限定見学会として開催する。

c) 八ッ場ダムファン倶楽部限定の現場見学会

八ッ場ダムファン倶楽部を立ち上げ、会員向けの特別見学会を開催している。入会資格は八ッ場ダムが好きで、八ッ場ダム及び周辺地域を盛り上げてくれる方を対象としている。

(2) 団体向け現場見学会の概要

団体のバス旅行の見学先の一つとして、八ッ場ダム工事現場を見学することができる。見学可能日は木曜日・年末年始を除く毎日であり、日曜日・祝日など、観光客が多くなる曜日でも開催している。一般団体向けやんばコンシェルジュ御案内ツアーが主となっているが、土木技術者専門向けや訪日外国人向け、小中学生を対象とした教育旅行プログラム、プレミアムフライデー限定ツアーを実施している。ダムの歴史や役割を説明後、工事現場を見学する。

a) 一般団体向けやんばコンシェルジュ御案内ツアー

一般団体向けやんばコンシェルジュ御案内ツアーは、見学箇所をダム上部（右岸天端）のみ、もしくはダム下部（左岸下流）（図-5）を追加する二つのコースがあり、所要時間は50分、90分程度である。参加者には八ッ場ダムカード及び「八基石」（ダムを支える基盤の石）を特典として配付している。



図-5 一般団体向けツアー実施状況（ダム下部にて）

b) 土木技術者・土木系学生向け見学ツアー

土木技術者・土木を専攻している学生など専門知識のある方々の研修や視察などを想定している。最新のダム技術について、やんばコンシェルジュではなく技術者が説明を行うコースである。

c) 訪日外国人向けYanba Inboundツアー

訪日外国人向けでは、概要説明の資料は英語版となる。通訳の同行が必要となるが、日本のダム技術を間近で見学することができる。

d) 小中学生向け教育旅行プログラム

主に小中学生の社会科見学として、工事中の八ッ場ダム見学や、八ッ場ダムの歴史及び必要性について学ぶことができる。三つのコースから選択することができ、やんばコンシェルジュによる講義とダム上部（右岸天端）を見学する基本コース、基本コースに加えダム湖周辺の新たなまちづくりを学ぶコース、基本コースに加え八ッ場ダム模型（図-6）を製作しながら、ダムの型式や役割を学習できるコースがある。



図-6 八ッ場ダム模型

e) プレミアムフライデー限定ヤンバナイトツアー

毎月最終金曜日のみに開催しており、八ッ場ダム本体工事現場の夜間見学をすることができる。（図-7）



図-7 夜間のハッ場ダム本体工事現場

(3) 車・徒歩でめぐる自由見学場所の概要

「車・徒歩でめぐる自由見学場所」は予約をすることなく大規模なダム工事を自由に見学することができる施設である。見学できる箇所は、左岸側にある展望台「やんば見放台」(図-8)、右岸側から見学することのできる「やんば展望広場(仮称)」(図-9)、ダム本体工事現場を正面から見学できる「ハッ場大橋」、パネル展示や模型などでハッ場ダム事業を分かりやすく学ぶことができる「なるほど!やんば資料館」(図-10)がある。「やんば見放台」、「やんば展望広場(仮称)」、ハッ場大橋には、工事現場が見学できるよう、双眼鏡を設置した。また、自由見学場所の各地点に設置してあるスタンプを集める事でハッ場ダムカードを受け取る事ができる。いずれも入場無料で、事前の申込等は不要のため、ハッ場地域での観光を計画していなかった旅行者でも、ダム見学をしながらハッ場地域を散策することができる。

a) やんば見放台

ダム建設の状況を、ダムサイト近くの高い位置から自由気ままに見学してもらえるよう開設した展望台である。

平成27年9月2日にオープンしてから平成30年5月末時点で約32万人の来訪者があった。

平成28年10月にはさらに間近に見学できるようお立ち台を設置し、多くの方に利用されている。



図-8 やんば見放台からの眺望

b) やんば展望広場

ダム建設の状況を右岸側から見学できる平成29年5月1日にオープンした広報施設で、最寄りの駐車場から見学場所まで、高低差がほとんどなく見学することができる。



図-9 やんば展望広場(仮称)からの眺望

c) なるほど!やんば資料館

ダム事業の経緯やダムが完成するまでの流れ等を分かりやすい映像やパネルで学ぶことができる資料館である。

館内には利根川流域全体を描いたフロアマットを設置し、流域の大きさやダムの位置関係を示している。

また、ハッ場ダム周辺のジオラマ模型を設置し、ダム周辺の地形や、地区の名前、場所が一目で分かるように工夫している。平成27年8月11日にオープンしてから平成30年5月末時点で約96,000人の来訪者があった。



図-10 なるほど!やんば資料館館内

(4) 「チームやんば」主催イベントへの協力

「チームやんば」とは長野原全体を盛り上げようとする地元住民と地元自治体、国で構成されている任意団体である。過去、各々の立ち位置で奮闘してきた経緯を踏まえ、各々が連携できる体制づくりの結果、立ち上げられた団体である。

今年度に入り、「チームやんば」主催のイベント「歩け歩け見学会」が開催された。地元町民を対象に募集をかけ、約70人が参加し、旧145号沿いを地元説明者の話を聞きながら約8kmをコースを歩くイベントを行った。(図-11)

今後7月7日にもハッ場大橋の上で「水辺で乾杯」す

るミズベリングのイベントを開催する予定である。そのイベントと連携して、イベントの時間に合わせてダム見学ツアー開催することになっている。



図-11 チームやんば主催イベントの様子

図-13 より当事務所の作成したホームページを参考に多くの人が訪れている事が分かった。また、新聞やテレビといったメディアで見学会を知った人も多く、報道機関向けの現場見学会も効果的と言える。

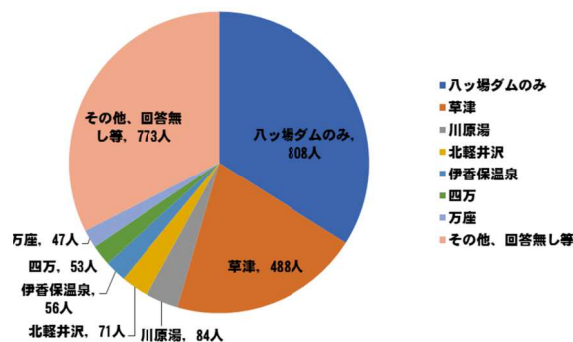


図-14 現場見学会以外の目的地について

3. やんばツアーズ実施の効果

広報活動によって得られた結果を整理する。

(1) 結果

情報発信の取り組みの結果として、個人向け現場見学会で実施しているアンケート結果（平成30年4月2日～4月30日）を以下に示す。

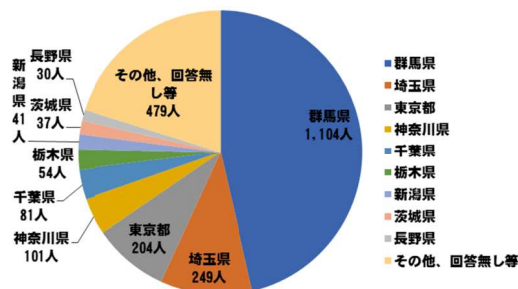


図-12 現場見学会参加者の所在

図-12 より個人向け現場見学会に参加した人の半数近くは県内から参加している。一方で埼玉県や東京都など下流都県の参加者も多いことが分かる。

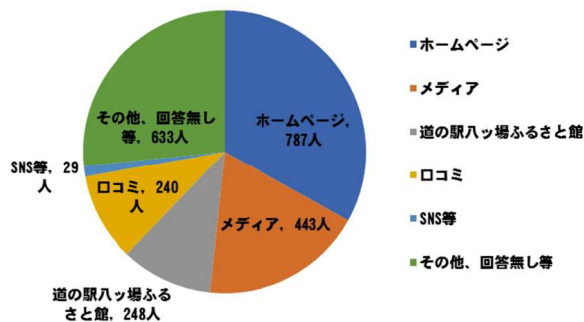


図-13 現場見学会を知った媒体について

図-14 よりハッ場ダムのみを目的地とする参加者が最も多く、当見学会を目的として来る人が多い事が分かった。また、草津温泉を利用する観光客がハッ場ダム見学も訪れている事が確認できた。

平成29年4月から平成30年5月末までの個人向け現場見学会参加者数について下記に示す。(図-15)

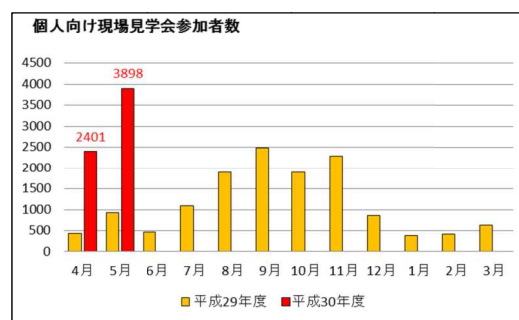


図-15 現場見学会参加者数

平成30年度は、4月より予約不要の「ふらっと見学会」を開始したことにより、前年の同時期より参加者が増加しており、4月は対前年比で約5.5倍となっている。

次に各広報施設（「やんば見放台」及び「なるほど！やんば資料館」）の来訪者数は以下の通りとなった。(図-16) (図-17)

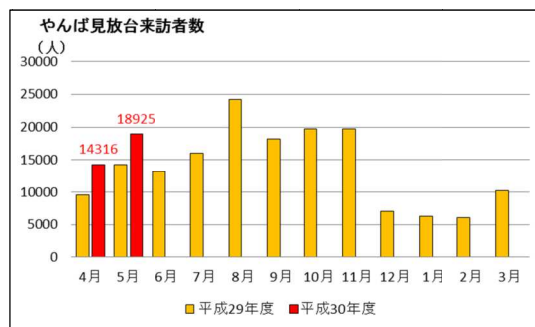


図-16 やんば見放台来訪者数

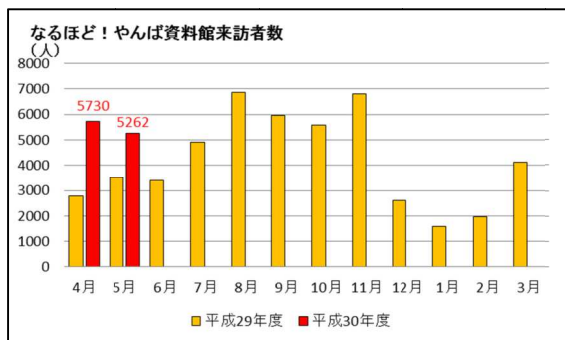


図-17 なるほど！やんば資料館来訪者数

各施設とも、平成30年度の来訪客数が前年度より増加しており、今しか見ることができない八ッ場ダム本体工事現場を見学するニーズが高まっていると考えられる。平成29年度の来訪者数について、秋は紅葉の時期に合わせて訪れる観光客が多く、来訪者数が伸びたが、冬は寒さが厳しく雪が多いためか、来訪者数が少なかった。

4. やんばツアーズにおける課題

上記データより、季節による来訪者数の差が大きいことが課題としてあげられる。年間を通じた来訪者数の増加を図るため、来訪者数の少ない冬季期間を重点的に、八ッ場ダム事業のPRを推進していく必要がある。

群馬県内からの来訪者が多いことと、八ッ場ダムを目的としてくる方が多いことから、群馬県内より、ダムの進捗を確認しにくるリピーターの方が多いことが考えられるが、来訪者の少ない、県外の方へのアプローチ方法を考え、県外からの来訪者数の増加を図る必要がある。

また、個人向け見学会のメインを、事前申し込み不要の「ぶらっと見学会」にしたことで参加者数が増加している。そのため、定員を大幅に上回る人数が参加を希望し、次の回に参加してもらうなどの対応を取っているが、見学スペースが限られているため定員を増加させることは困難であり、現状のスペースを上手く利用しながら、一人でも多くの方にダム見学をしてもらえる様な対応が必要である。(図-18)



図-18 ダム上部（右岸天端）から見学する参加者

5. 考察と今後の方針

見学者が減少する冬季期間の来訪者数の確保に対する方針として、草津の旅館やスキー場に訪れる観光客をターゲットとして、本格化する八ッ場ダム本体工事現場の情報発信をより一層推進していく。

県外からの来訪者数確保に対する方針として、県外への情報発信の推進が考えられるが、情報発信とアプローチの方法としては、地元主体の「チームやんば」で行う印象的なイベントで知ってもらうところから始めたい。その際、情報発信の主体は「チームやんば」で行い、多方面からのアプローチを行っていく。

来訪者数増加に伴う見学スペースの限界に対する方針としては、自由見学場所への誘導が挙げられる。時間的な制約が無いことからダムの見学を気軽に行う事ができる。ただ案内者がいないため、訪れた人が八ッ場ダム事業について理解することができるよう、ダムの諸元・役割などが書かれた分かりやすい広報パネルを設置する等、自由見学場所のさらなる充実を図るとともに、初めて訪れる方のために、分かりやすい地図等を配布する。

また、ダム完成後の持続的な地域振興について、大きな役割を担うであろう「チームやんば」の活動援助があげられる。縦軸の確立と多様化を促すとともに、横軸において、構成員や協力者の拡充やその方法を考え、「チームやんば」拡大へ向け、地域振興へ寄与すべく取組を行っていく。

6. おわりに

八ッ場ダム事業は佳境を迎えており、大規模なダム工事現場を見学できるのは今だけである。八ッ場地域を訪れた方へダム事業の理解を深めて頂けるよう今後も広報活動に取り組んで行くと共に、ダム完成後、地元主体で行う持続的な地域振興に繋がるよう取り組んでいく。

参考文献

- 1) 国土交通省：ホームページ「インフラのストック効果事例」について
http://www.mlit.go.jp/river/stock_kouka/index.html
- 2) 関東地方整備局：関東地方ダム等管理フォローアップ委員会 第24回委員会資料(平成27年12月18日開催)62頁。
http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000643299.pdf
- 3) 群馬県：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査結果(交通量観測地点：長野原町大字林 1567-4地先) <https://www.pref.gunma.jp/contents/100022477.pdf>
- 4) 関東地方整備局河川部・八ッ場ダム工事事務所：八ッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」に関する記者発表資料 2017.3.22
http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000669498.pdf